

Lyric Colors

リリック カラーズ

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

2022
SUMMER
TAKE FREE

あなたの毎日に芸術文化のいろどりを。

リリックの夏 アツいステージを♪

アフィニス夏の音楽祭2022 Nagaoka

スペシャルインタビュー

狂言師 **野村 萬斎** 野村万作・萬斎狂言公演

俳優 **市毛 良枝** 演劇公演「百日紅、午後四時」
さるすべり

注目公演

仲道郁代 ピアノ・リサイタル 前奏曲 ―永遠への兆し―

第20回 澤クワルテットコンサート ～疾走する悲しみから無垢なる喜びへ～

9/23(金)祝
リリックホール コンサートホール
開場／13:15
開演／14:00

ユニオン ツール クラシックプログラムvol.25

仲道郁代 ピアノ・リサイタル 前奏曲 ―永遠への兆し―

全席指定 3,000円 ※チケット発売中 ※未就学児入場不可

ドビュッシーとラフマニノフの前奏曲― ピアノリズムの新境地に挑む

2018年よりスタートした、10年にわたる壮大な仲道郁代のリサイタルシリーズ「The Road To 2027」は、今年で5年目となります。昨年の「幻想曲の模様―心のかけらの万華鏡―」は、作曲家の心に思いを馳せた繊細で奥深い演奏と高い評価を受け、令和3年度文化庁芸術祭「大賞」を受賞しました。今年のテーマは「前奏曲―永遠への兆し―」。仲道郁代がピアノの表現の限界へ挑む、フルレンジの豊かな響きを全身で感じてください。

〔曲目〕ドビュッシー：前奏曲第2巻

ラフマニノフ：前奏曲集 作品23より第2番、第5番、第7番

前奏曲集 作品32より第2番、第5番、第8番、第10番、第11番、第12番

前奏曲「鐘」作品3-2

※曲目・曲順は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



©Tomoko Hidaki

11/26(土)
リリックホール コンサートホール
開場／13:15
開演／14:00

第20回

澤クワルテットコンサート ～疾走する悲しみから無垢なる喜びへ～

全席指定 3,000円 ※未就学児入場不可

〈リリックm.c.優先予約〉8/18日(木) 〈一般〉8/19(金)

絶えず進化し、研ぎ澄まされた 音色で綴るモーツァルトの 室内楽曲を代表する傑作！

小林秀雄が名著「モーツァルト」の中で「疾走する悲しみ」と評したK.516と対照的なK.515の2つの弦楽五重奏曲を、名手、阪本奈津子を第2ヴィオラに迎え、澤クワルテットのリリックホール第20回の記念公演を飾ります。弦楽四重奏とは一味違う五重奏の重層的なハーモニーをお楽しみください。

〔出演〕澤 和樹(第1ヴァイオリン)
大関 博明(第2ヴァイオリン)
市坪 俊彦(第1ヴィオラ)
林 俊昭(チェロ)
阪本 奈津子(第2ヴィオラ)

〔曲目〕

モーツァルト：弦楽四重奏曲 No.3 ト長調 K.156

弦楽五重奏曲 No.4 ト短調 K.516

弦楽五重奏曲 No.3 ハ長調 K.515

※曲目・曲順は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



©Akira Muto



澤 和樹
(第1ヴァイオリン)



大関 博明
(第2ヴァイオリン)



市坪 俊彦
(第1ヴィオラ)



林 俊昭
(チェロ)



阪本 奈津子
(第2ヴィオラ)

Lyric Colors vol.6

〈2022年7月25日発行〉

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6

TEL. 0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>



狂言師

野村萬齋

撮影：政川 慎治



劇場は「大勢が同時に感動できる」場所、そして「幸せが生まれる」場所――

テレビドラマ、映画、演劇など多方面で活躍されている、野村萬齋さんから狂言の魅力やご自身の活動に対する熱い想いを語っていただきました。

「大勢と一緒に笑う」という幸せ

一人でテレビを観て笑っているより、劇場に集まり大勢で笑うことから生まれるエネルギー量は全く違います。私は、「大勢が同時に感動出来る場所」である劇場を「幸せが生まれる場所」だと思っています。

しかし、コロナ禍で人と会うことが制限され、我々も二カ月ほど活動できない時期がありました。経験したことのない状況で社会が混乱しましたが、能狂言をはじめとする多くの伝統芸能は長い歴史のなかで、度重なる戦争や震災などを乗り越え、現在まで続いています。そもそも、新能は天候に振り回され、長岡でも古い相撲場での新能が土砂降りで中止になったこともありました（笑）。とにかく、そう簡単には芸術文化は滅びないと信じ、自粛期間中は稽古に励んでおりました。

活動が再開し、久々に人前で演じた時には、消費エネルギーが稽古とは段違いだと再認識すると同時に、大勢のお客様が一緒に笑うということは、とても幸せなこと、「狂言を演じていて良かった！」と心から思いました。

「父は師」

私は、幼いころから狂言の稽古で足腰を鍛えていたので運動神経には多少自信があり、子どもの頃はプロ野球選手やお相撲さんになりたいと思ったこともありました。自分より大きい子を投げ飛ばしていたんですよ（笑）。

父（野村万作・人間国宝、「万作の会」主宰）は私にとっては、父である以上に「師」です。狂言の稽古は師匠から型を習う、型を身につけることから始めるわけですが、今や父はその型を超越した先の自由な表現という「境地」を見出しています。90歳を過ぎても地道に努力を積み重ね続ける姿から、リアルタイムで私と息子にその境地に至る道程を見えています。有難い存在です。

現在息子の裕基は型どおりに演じていますが、父は細かいことを言わない。今は基本を身につける時期だからです。私は逆に細かいことを言う方かもしれません。（笑）

劇場はコミュニケーションを取る場所

長岡のお客様は本当に言葉によく反応してくださるので、毎回気持ち良く演じております。また、劇場というのは人が集まり、コミュニケーションを取る場だと考えています。リリックホールのシアターは、客席の勾配具合や広さが程よく、狂言をご覧いただくのに適した劇場だと思います。お客様一人一人の顔が良く見え、皆さんの反応がわかり、コミュニケーションが取れているという実感があります。

このコロナ禍、まだまだ心配は尽きませんが、私共も精一杯、努めさせていただきます。ぜひ足をお運びいただき、「笑い」で免疫力を上げていただけたら幸いです。

萬齋さんの見どころ満載

「狂言の笑いは奥深い」

狂言のなかでも、趣が違う二曲を上演します。「入間川」は粋がついている大名に対し、冷やかな地元の男との「言葉遊び」によるやり取りにご注目ください。「泣尼」は邪な考えを持つお坊さん、そして現金な尼さんの「本音と建前」が滑稽に描かれています。

狂言では、大名やお坊さんなど身分が高い人の見えない部分が描かれています。「みな同じ人間」という平等の目線で、位の高い人を冷めた目線で嗜める平民……という図式のものが多くあります。「笑いのヴァリエーション」が豊富で奥深さがあるのが狂言の面白さです。

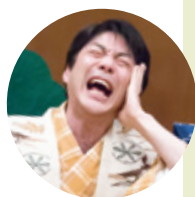
入間川

長らく都にきていた遠国の大名が、従者（太郎冠者）を連れて本国へ帰る途中、入間川に行き当たります。通りがかりの入間に住む男が「そこは深い！」と止めるのも聞かず、川に入った大名は、深みにはまりずぶ濡れになってしまう。昔から人間では《入間様》を使うはずだと怒った大名は、男を成敗しようとするが……

※《入間様》とは、逆さ言で物事を全て反対に表す言葉遊び。

泣尼

親の迫害のために堂を建立した田舎者が僧に説法を頼みに来る。ところが僧は説法があまり上手くない。下手な説法を引き立たせるために、いつも頼んでいる涙もろい泣き役の尼を連れて行くことにする。準備万端整い、説法が始まるが、肝心な時に尼が居眠りを始めてしまう。



野村万作・萬齋 狂言公演

9/21(水) 開場／18:15 開演／19:00

長岡リリックホール・シアター

全席指定 5,500円 ※チケット発売中 ※未就学児入場不可

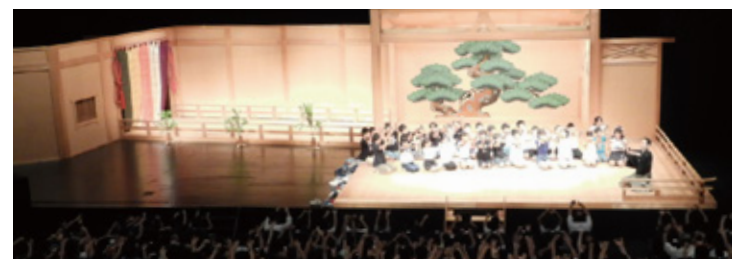
■解説／高野和憲

小舞「海人」 中村修一 地謡／岡聡史、高野和憲、内藤連

大名／野村萬齋 太郎冠者／飯田豪 入間の何某／石田幸雄 後見／内藤連

僧／野村万作 施主／高野和憲 尼／月崎晴夫 後見／岡聡史

泣尼



長岡リリックホールでは、「万作の会」による、小学5年生を対象にした狂言ワークショップを平成29年より継続開催しています。



子ども達に「表現すること」の楽しさを

私たち「万作の会」は、狂言ワークショップを約30年続けています。この活動を始めたころ、「キレる子ども」が問題視されていました。私は「キレる」というのは、発散が上手くできず「感情の堰が切れる」というイメージを持っています。いくら自由に表現を、と言っても方法を知らなければいきなり自分を表現することは難しい。学校教育では感情表現の仕方は教えてくれません。そこで、伝統芸能である狂言の型に乗っ取って「表現」することを学ぶことが「発散」に繋がると考えたわけです。

子ども達には、狂言を通じて、「表現すること」を楽しんで「発散」して欲しいと感じています。最近は教育現場でヒップホップダンスを採り入れていますが、狂言をはじめとする日本の伝統芸能をもっと活用していただけたらという思いもあります。

俳優

市毛良枝

スペシャルインタビュー



さるすべり
ハートウォーミングな大人のホームドラマ、「百日紅、午後四時」を上演します。脚本・演出は喜劇作家として人気を博する鈴木聡さん（ラッパ屋主宰）、主演はテレビドラマでもお馴染みの市毛良枝さんが務めます。台本は現在（7月）執筆中！当て書きの名手としても知られている鈴木さんの新作は、鬱屈した気分を笑いと涙で吹き飛ばしてくれることでしょう！

はつらつ
今回は、いつも深刺とされている市毛さんに、公演への想いや元気の秘訣をお伺いしました。

「人生百年をどう生きる」

今回の上演作品のテーマ「人生百年をどう生きる」についてですが、正直そこまでの長生きは望んでいないです（笑）。母を百歳で見送りましたが、約13年間介護してきた身として、「長生き＝幸せ」と単純ではないことを学びました。私自身は、不健康なことが嫌いなので、身体に悪いことを避けていたら、気が付けば母以上に健康的な生活を送っていますので、90歳まではなんとか人の手を借りず自力で暮らせろと思っています。運動は40歳まで嫌いでしたが、ちよつとした縁で登山に出会い、山登りを始めたら、身体を動かすことが好きになり、最近は健康に良いと思うこととは意識的にどんどん取り入れていきます。今回、私が演じる主人公は66歳になって再

心から楽しみにしています。そして、私自身が俳優として何ができるかというのはわかりませんが、少しでも皆様に笑顔になっただけのようひたすら精進します。

婚を考えるようになりますが、私自身はこのコロナ禍で、独り身で良かった、としみじみ感じています（笑）。不安や寂しさはもちろんありますが、誰かと一緒に暮らすということは、互いに面倒を見合うことで、ものすごく大変なこと。これ以上煩わしいことは勘弁です（笑）。半面、70歳を過ぎて3回目の結婚をした友人が、色々な意味で自立した「大人の付き合い合い」をしているのを見ると、案外アリと感じているのも事実です。

舞台は神聖な場所。 演劇人は憧れの存在。

舞台に立つのは久々です。デビュー前、女優を目指して文学座の研究所に入所しました。とても厳しい世界で、1年目で劇団に残れる

数名以外は全員終了。研究所の掲示板に貼られた結果を見つめ大泣きしました。これが人生初の挫折でした（笑）。なので、大袈裟ではなく、舞台は神聖な場所、演劇人は憧れの存在。今も自分なんか舞台に立つなんておこがましいという思いでいっぱいです。

今回オフアールをいただいた時は、色々言い訳して逃げ腰でしたが、「何をゴチャゴチャ言ってるんだ」とプロデューサーに笑われ、演出の鈴木さんにお会いすることに……。しかし、鈴木さんのお父様が、私のデビューしたドラマの演出家だとわかり、なんだか不思議なご縁で逃げられなくなった感じでした。これから稽古が始まるんですがグズグズ言っているんだらうと思いますが、自分を鍛え直すために頑張ります。

芸術文化は絶対に不要不急じゃない。胸を張って言える。

一昨年の9月、感染が一時落ち着いてやつと劇場が少しずつ開きだした時に、あるコンサートがありました。それまで外に出るのも控えていましたが、意を決して出かけました。50%に制限された客席は寂しく、感染症への警戒態勢のなか緊張感でピリピリしていました。それでも幕が上がると、その場にいたすべての観客が、「あなたをひとりにはさせない」とばかりに一曲一曲に意識を集中させ、「この瞬間を待っていた」と割れんばかりの拍手！劇場はかつてない一体感に包まれ、深く感動しました。

この時に、「人が生きて行くうえで、芸術文化は絶対に必要、不要不急じゃない」って胸を張って言えると強く感じました。残念ながら、海外に比べて日本では演劇や音楽などの芸術文化は後回しにされがちです。日本が心の栄養である舞台芸術を蔑ろにしない、文化意識の高い国であって欲しいと切に願います。コロナ禍では、自分の仕事に負い目を感じることもありましたが、この体験から、自分ができることからコツコツと実行しようと思いきな気持ちになりました。

私、河井継之助に恋していました！

新潟県には訪れたことはあるのですが、長岡は初めてです。長岡はお米やお酒で有名ですよ。お酒は飲めないくせに好きなので、今から美味しいお店をリサーチするつもりです。

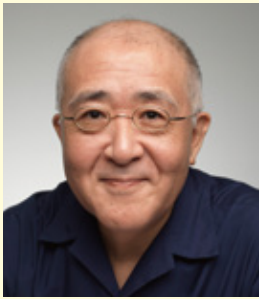
そして実は私……河井継之助の大ファンなんです。恋をしていた時期もありました（笑）。いつか「峠」越えをしたいと思っています！そんな歴史あるまちで暮らす皆様にお会いできることを

いちげ よしえ
Profile 市毛 良枝



文学座附属演劇研究所、俳優小劇場養成所を経て、1971年テレビドラマ「冬の華」でデビュー。以後、映画、テレビ、舞台と幅広く活躍。現在は、執筆活動や講演も行っている。40歳から始めた登山が趣味であり、1993年にはキリマンジャロ、その後、ヒマラヤの山々にも登っている。環境問題にも関心を持ち、1998年には環境省の環境カウンセラーに登録された。その他、特定非営利活動法人日本トレッキング協会の理事を務める。近年の出演作に、ドラマ「釣りバカ日誌」「越路吹雪物語」「白い巨塔」「コントが始まる」「未来への10カウント」「無用庵隠居修行」シリーズ、「駐在刑事」シリーズ、映画「神様のカルテ2」「春を背負って」「駅までの道をおしえて」「望み」など多数。著書に「山なんて嫌いだった」（山と溪谷社）などがある。

脚本・演出 鈴木聡さんのコメント



人生百年時代です。「長生きできてめでたい」と喜ぶ人が多いと思いますが、「お金が心配」「病気が心配」「なにより、この先いたい何したらいいの？」と戸惑う人も多いようです。百日紅の木がある家で暮らす主人公一美は66歳。彼女は自分の年齢を「午後四時」だと言います。人生百年を1日に例えれば、66歳は午後四時あたりだと言っわけです。その一美が集まってきた家族を前にとんでもないことを言い出して……。

「人生百年時代をどう生きる？」に思いを巡らす骨太なホームドラマ。コロナや戦争で世の中は大変だけれど、舞台には笑いと優しさが溢れる心豊かな時間をつくりたいと思います。

ala Collection シリーズ Vol.13

演劇公演

「百日紅、午後四時」

10/16日 開場／13:15
開演／14:00

長岡リリックホール・シアター

全席指定 3,000円 〈リリックm.c.先行発売〉8/9日（火）
※未就学児入場不可 〈一般〉8/10（水）

【あらすじ】

夏。東京郊外。庭に百日紅が咲く今村家。夫を亡くし三年、六十六歳となった一美が息子や弟、妹たちを呼び寄せた。はしゃいだ様子で家族をもてなす一美は一人の男を紹介する。「結婚しようと思ってるの」「え、六十六歳で?」。そこに何やら訳ありの見知らぬ若い女も現れて……。人生の後半を迎える人々が新たな一歩を踏み出す、ひと夏の物語。夏から秋への移ろいの中で、人々の心の移ろいと決意を、可笑しく愛おしく描きます。



市毛 良枝



陰山 泰



福本 伸一



朝倉 伸二



弘中 麻紀



岩橋 道子



瓜生 和成



平体 まひろ

この作品は、地方から質の高い演劇を全国発信しようと岐阜県にある可児市文化創造センターが中心となり制作し、全国で公演しています。
（公財）長岡市芸術文化振興財団と連携し公演するのは、今作で11作品目となります。

アフィニス夏の音楽祭2022 Nagaoka

～海外のトップ・プレイヤーと日本のプロオーケストラ・メンバーが創る豊かな音の世界～

8日間
毎日開催

長岡リリックホールが 音楽あふれる 特別な空間に♪

8/21日～28日

アフィニス夏の音楽祭が、3年ぶりに本来のスタイルで開催することが決定しました！
熱い公開セミナーや演奏会に加え、地元アーティスト達による関連イベントなど、
盛りだくさんのプログラムが繰り広げられます。今回は“音楽交流プログラム”とし
て開催される入場無料の魅力たっぷりなイベントをご紹介します。

The Affinis
Music
Festival



イベントが盛りだくさん！
詳しくはこちらを
ご覧ください。

「アフィニス夏の音楽祭」とは

世界の名門オーケストラの首席奏者らと日本のプロオーケストラ・メンバーが集まり、室内楽の名曲に取り
組む、日本で唯一の音楽祭です。プロの演奏家たちが意見を交換しながら音楽を作り上げていく様子を一般
公開し、成果発表の演奏会を行います。音楽を通じた地域交流プログラム等も開催します。



音楽祭の開幕を祝う♪

8/21
日

オープニングセレモニー&コンサート

入場
無料

音楽監督の川崎洋介さんを始め、参加する国内外の演奏家メンバーが集まり、音楽祭の開幕を告げる
セレモニーを行います。長岡少年少女合唱団による元気いっぱいのコンサートを楽しんだ後は、悠久太
鼓長岡青悠会による迫力の演奏と長岡花火の打ち上げで音楽祭ムードを一気に高めます！



川崎 洋介

音楽監督／ヴァイオリン
ナショナルアートセンター
管弦楽団
コンサートマスター

この夏、日本そして長岡へ再び集まれることとなり、大変うれし
く思っています。これまでの2年間、多くのホールや芸術団体が
活動停止状態となっていました。そして今、ようやく芸術文
化活動への活力と情熱を取り戻してきたと感じています。この芸
術の復活を「アフィニス夏の音楽祭」で一緒に祝いましょう。長
岡リリックホールでお待ちしています！

会場／コンサートホール

開演／17:30～19:15(開場17:00)

TEL.0258-29-7715(要電話申込)

コンサート出演／長岡少年少女合唱団

コンサート終了後は悠久太鼓 長岡青悠会の演奏と花火でお楽しみください。



悠久太鼓 長岡青悠会



長岡花火



長岡少年少女合唱団

注目！ 室内楽の豊かな音の世界を体験しよう！

公開セミナー・ ワークショップ

セミナーでは「室内楽演奏会」
や「あいうえ音楽会」で演奏す
る9曲を演奏家同士が意見を
交換しながら、練り上げていく
様子を一般公開します。ワーク
ショップは楽器別で行われ、招
へい演奏家が設定したテーマ
に沿って行います。



8/22(月)～25(木)

セミナーの時間割や課題曲などの詳細は、
左ページのQRコードからHPでご確認ください。

会場／コンサートホール、シアター、スタジオ、他

セミナー聴講券／500円(22～25日期间中有効)

※室内楽演奏会のチケットをお持ちの方は無料でご覧いただけます。

招へい演奏家・ゲスト



川崎洋介
(音楽監督／ヴァイオリン)



ヘンリック・ホルツ
(ヴァイオリン)



ポール・ベシュティ
(ヴィオラ)



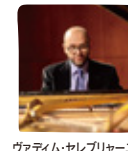
ヴォルフガング・ケッセル
(チェロ)



ジョアンナ・グレイエル
(フルート)



インヒク・チョウ
(クラリネット)



ヴァティム・セプレバーニ
(ピアノ)



林美智子
(歌手／メゾ・ソプラノ)

室内楽演奏会

招へい演奏家と国内のプロ
オーケストラ・メンバーで構成
されたグループがセミナーの
成果を発表します。



1
日目

8/26(金)開演19:00(開場18:30)

【曲目】 S.コールリッジェ・テイル／クラリネット五重奏曲 嬰へ短調 op.10
J.タワー／ライジング 《日本初演》
ラヴェル／ステファヌ・マラルメの3つの詩
メンデルスゾーン／弦楽八重奏曲 変ホ長調 op.20

2
日目

8/27(土)開演15:00(開場14:30)

【曲目】 M. ベイツ／ライフ・オブ・パース 《日本初演》
ブラームス／弦楽五重奏曲 第2番ト長調 op.111
シューマン／ピアノ五重奏曲 変ホ長調 op.44

会場／コンサートホール

全席自由 一般／2,500円 学生／1,000円 セット券／4,000円

《室内演奏会のチケット》お持ちの方限定！

プロムナードコンサート

8/27(土)開演14:00(開場13:30)

会場／第1スタジオ
入場無料(要室内演奏会チケット)

出演者のトーク付きで、短い時間で
室内楽の傑作をお届けします。



【曲目】 シューマン／リーダークライス op.39より第5曲「月の夜」
J. マーロック／アサイラム 《日本初演》
ベートーヴェン／遙かなる恋人に寄す op.98
シューマン／幻想曲 op.17より第1楽章

音楽祭の最終日は親子で楽しもう！

8/28
日

大人も子どもも楽しめる“オープンハウス”

参加
無料

音楽祭の最終日は、音楽を通じた学びやあそびが楽しめる親子向けプログラムです！
フィナーレは音楽祭メンバーたちによる、ファミリーコンサート「あいうえ音楽会」で盛り上げます。

1 音の科学実験 ～音をカラダで感じよう！～

牛乳パックのギターづくりや、「音」を出すために
は？「どうして“音”は遠くまで聞こえるの？」など、
音の正体や仕組みが学べる体験コーナー。

会場／情報ラウンジ

(1回目)10:00～10:40

(2回目)12:50～13:30

協力／長岡地域理科教育センター

※受付は各15分前から(定員各30名)



2 朗読会「セロ弾きのゴーシュ」

宮沢賢治でおなじみの作品を、
チェロの生演奏付きでお届けする朗読会。

会場／シアター

時間／11:00～(開場10:30)

※申込不要

【出演】

朗読／今井和江、澁谷範子 ほか
チェロ／片野大輔



3 長岡交響楽団& 越の国室内合唱团VOX ORATTA コンサート

前半は、長岡交響楽団の有志メンバーによる、クラリネット三重奏と
ホルン四重アンサンブルによる演奏。後半は、合唱団VOX ORATTA
による子どもから大人まで楽しめる歌をお届けします。

会場／ホワイエ

時間／12:00～13:00(開場11:30) ※申込不要(先着80名)

4 あいうえ音楽会 要整理券

本格的な曲を演奏家が楽しく解説！みんなで観
て、聴いて、体験するファミリー向けコンサート。

会場／コンサートホール

時間／14:00～15:00(開場13:30)

出演／アフィニス祝祭管弦楽団

※未就学児のお子様もご入場いただけますが、
周囲のお客様にご配慮とご協力をお願いします。



【曲目】 ニールセン／小組曲 op.1
M. ベイツ／ライフ・オブ・パース 《日本初演》
ラヴェル／ステファヌ・マラルメの3つの詩
J. モンメリー／ストラム 《日本初演》